(表1) 稲 WCS の収穫時期・成分・発酵品質(乾物中)

			早期収穫	適期収穫	適期収穫+ 高密度	備考
		水分	60.6%	31.0%	71.5%	
		СР	6.3%	4.6%	5.6%	粗タンパク質
		NDF	68.4%	58.5%	54.9%	中性デタージェント繊維
		ADF	35.0%	32.6%	32.1%	酸性デタージェント繊維
一般成分		ADL	3.1%	2.1%	1.4%	酸性デタージェントリグニン: リグニン
		デンプン	16.6%	12.6%	6.7%	
		NFC	12.5%	29.4%	29.0%	非繊維性炭水化物:糖・デンプン・ペクチン
		EE	1.7%	1.0%	2.2%	粗脂肪
	ミネラ	粗灰分	13.9%	8.4%	9.5%	
		Ca	0.4%	0.2%	0.3%	
		Р	0.2%	0.2%	0.2%	
	ル	Mg	0.2%	0.2%	0.2%	
		K	1.9%	1.2%	1.3%	
エネルギー		TDN	52.5%	61.8%	64.4%	
繊維の	評価	OCC	22.9%	33.2%	34.1%	細胞内容物:糖・デンプン・タ ンパク質・脂肪・灰分
		OCW	63.2%	58.5%	56.4%	総繊維:≒NDF
発酵品質		рН	5.2	5.8	3.9	
		アンモニア態N	0.03%	0.01%	0.02%	
		アンモニア態N/全N	3.10%	1.40%	2.40%	
		酪酸	0.00%	0.00%	0.00%	
		乳酸	1.66%	0.04%	4.32%	
		酢酸	0.37%	0.13%	0.43%	
		プロピオン酸	0.00%	0.00%	0.00%	

- ・ 出穂(9 月中旬)してから、約 1 か月後の収穫で、稲 WCS の成分品質 (高糖分・高消化)が高まる。
- 微細断(高密度)して、サイレージ調製することで、稲 WCS の発酵品質が高まる。

# 4. 高糖分・茎葉型の稲 WCS 専用品種の早期田植え、専用肥料の効果(令和 2 年度)

高糖分・茎葉型の稲 WCS 専用品種「つきすずか」(極晩生)の収量・成分を高めるため、収穫適期は、少なくとも出穂(令和元年:9/13)後2週間以降とされる。しかしながら、県内では、降雨量が増える9月以降、ほ場が軟化し、稲の収穫が困難になるため、作業者は8月下旬までの早期収穫を希望している。

そこで、早期田植した場合の収穫時期、及び収量・成分に及ぼす影響について調査(実証2)した。また、高糖分・茎葉型の稲 WCS 専用品種の専用肥料(Nのみ、田植え同時肥効調節型肥料)が、早期田植した場合の収量に及ぼす影響について調査(実証1)した。

### (1) 栽培の概要

栽培品種:「つきすずか」

栽培期間:令和2年4~8月

堆肥:牛糞堆肥約 6t/10a

基肥施肥量(kg/10a) ······ (実証 1: 慣行区と専用肥料区の比較)

	N	Р	K	備考
慣行区	4.2	4.2	4.2	国産高度化成 14-14-14
 専用肥料区	12.0	-	-	(株) JA ライフ富山で配合 (写真 1、2)



(写真1) 専用肥料



(写真2)専用肥料の散布

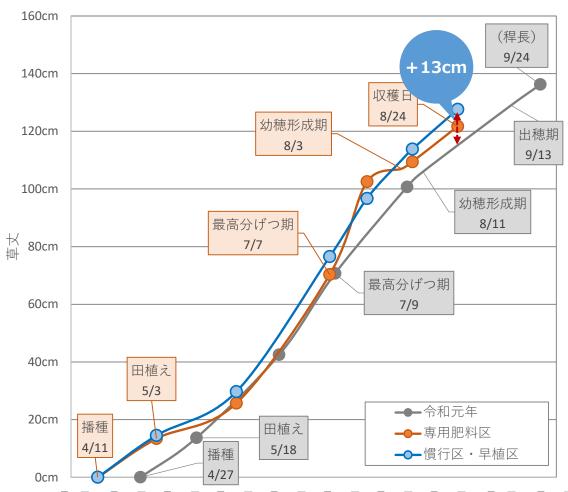
播種、田植え及び収穫日 " (実証 2:令和元年と早植区(令和 2年)の比較)

	播種	田植え	収穫	田植え 〜収穫	備考
令和元年	4/27	5/18	10/5	140 日	
早植区	4/11	5/3	8/26	115 ⊟	(実証 1) 慣行区と同じ
差	▲16 日	▲15 日	▲40 日	▲25 日	

### (2) 生育ステージ

## (実証1: 慣行区と専用肥料区の比較)

慣行区、専用肥料区で生育ステージの差はなかった(図1)。



4月1日 4月21日 5月11日 5月31日 6月20日 7月10日 7月30日 8月19日 9月8日 9月28日

(図1) 生育ステージ及び草丈の推移

#### (3) 生育調査の結果

#### (実証1:慣行区と専用肥料区の比較)

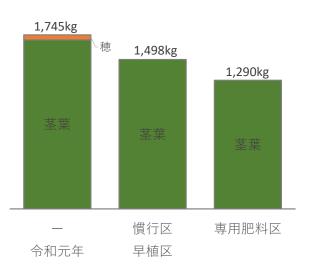
草丈は、慣行区と比較して専用肥料区の方が短く推移し(図 1)、収穫物の乾物重(kg/10a)も慣行区 1,498kg に対し専用肥料区 1,290kg と約 14%少なく(図 2)、専用肥料の増収効果は認められたなかった。

これは、専用肥料は即効性が少なく、初期生育が十分に確保できなかったためと考えられる。

# (実証2:令和元年と早植区(令和2年)の比較)

草丈は、令和元年の同時期と比較して、早植区で約13cm長く、早期に田植えすることで、収量は増えることが想定された。

しかし、収穫物の乾物重(kg/10a)は、令和元年の1,745kgと比較して、早植区では1,498kgで約14%少なくなった(図2)。これは、令和元年より早期収穫することで出穂期から収穫期までの乾物生産量が確保される前に刈取したため収量は少なくなったものと考えられる。



(図2) 収穫物の乾物重 (kg/10a)

#### (4) 成分分析の結果

#### (実証2:令和元年と早植区(令和2年)の比較)

令和元年と比較して、早期収穫は、発酵品質に問題はなかったが、NDF が多く、デンプン、NFC(糖・デンプン・ペクチン)が少なく、TDN も低かった。

- 早期収穫では、専用肥料の効果は確認できなかった。
- 早期田植で収量を増やすことができる可能性がある。
- 早期収穫では、生育後半に生産できる乾物量が確保できない。

(表 1) 稲 WCS の成分(乾物中)

			令和元年	早植区	備考
		水分	31.0%	31.6%	
一般成分		СР	4.6%	5.7%	粗タンパク質
		NDF	58.5%	66.6%	中性デタージェント繊維
		ADF	32.6%	34.6%	酸性デタージェント繊維
		ADL	2.1%	1.9%	酸性デタージェントリグニン: リグニン
		デンプン	12.6%	6.9%	
		NFC	29.4%	18.6%	非繊維性炭水化物:糖・デンプン・ペクチン
		EE	1.0%	1.6%	粗脂肪
	111	粗灰分	8.4%	11.0%	
	^ ネ ラ ル	Ca	0.2%	0.3%	
		Р	0.2%	0.2%	
		Mg	0.2%	0.2%	
		K	1.2%	1.6%	
エネル	ギー	TDN	61.8%	58.7%	
繊維の評価		OCC	33.2%	26.9%	細胞内容物:糖・デンプン・タンパク質・脂肪・灰分
		OCW	58.5%	62.1%	総繊維:≒NDF
		рН	5.8	6.2	
発酵品質		アンモニア態N	0.01%	0.01%	
		アンモニア態N/全N	1.40%	1.20%	
		酪酸	0.00%	0.00%	
		乳酸	0.04%	0.02%	
		酢酸	0.13%	0.10%	
		プロピオン酸	0.00%	0.00%	